大阪産業大学
OSAKA SANGYO UNIVERSITY

2026年10月30日発行

産官学連携推進 News Letter Vol. 8

活動紹介

「大学見本市～イノベーション・ジャパン」に出展
情報デザイン学部 岩居准教授

2026年8月27日(木)・28日(金)の2日間、東京ビッグサイトにて「大学見本市2026～イノベーション・ジャパン」が開催されました。本展示会は、特許出願中または特許取得済みの研究成果を中心としたシーズ展示の場で、大学・研究機関・大学発ベンチャーが出展することを特長としています。本学からは、情報デザイン学部の岩居健太准教授が「AIに頼らない高性能音響エコー・雑音キャンセラ」を出展し、音響エコーの除去や背景雑音の抑圧に用いる適応フィルタを活用したシステムを紹介しました
会期中は、大手音響メーカーをはじめ、組込みソフトウェア、センシング、音響システム、音響関連部品等を扱う企業や、建築現場・イベント会場における音響課題に取り組む企業のほか、大学・研究機関、地方自治体/公的機関など、幅広い分野から多数の方々にブースへお越しいただきました。活発な質疑応答や意見交換も行われ、研究成果の社会実装に向けた手応えを得る、非常に有意義な出展となりました。



「CEATEC」に出展
情報デザイン学部 伊藤教授

2026年10月13日(火)～16日(金)、幕張メッセにて、「CEATEC2026」が開催されました。CEATECは、一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)が主催する、アジア最大級のデジタルイノベーションの総合展です。本学からは情報デザイン学部の伊藤一也教授が研究成果「周波数解析補間手法の高精度化と小型AIによる回転体異常検知技術」を出展し、小型マイコン上で回転体に生じる異常を検知する組込みAI技術を紹介しました。
会期中は、自動車・電子部品・情報・通信、IT、ソフトウエア、機械、設備、材料・化学などの製造業をはじめ、広告/サービス業、公的機関、官公庁、大学/研究機関など、幅広い分野から来場者が訪れました。また、出展者セミナーに登壇し、多数の聴講者に研究内容を紹介しました。今回の出展では、研究シーズを一方的に提供するだけでなく、研究者や専門家との対話を通じて産業界のニーズを把握することができ、大変有意義な機会となりました。



トピックス

「関西私立大学知的財産連絡協議会」定例会を行いました（9月18日）

本協議会は、関西地域の私立大学12校が参加し、知的財産や産官学連携に関する情報交換と、知的財産管理体制の強化を目的とする組織です。9月18日(金)に、関西大学 千里山キャンパスで定例会が開催され、本学からは産業研究所事務室の担当者2名と産学連携コーディネータ1名が参加しました。
今回は、各大学が抱える課題について事前にヒアリングを行い、その回答をもとに、掘り下げて議論したいテーマを選定して意見交換会を行いました。実務におけるAIの活用方法や具体的な事例、退職に伴う知財の取扱い、知財の譲渡に関する取扱い、発明の定量評価など、多岐に渡るテーマについて活発に議論が交わされました。
特にAIの活用については、大学間で取り組み状況に違いが見られ、今後も継続的な情報交換が必要なテーマであることを認識しました。今後も、大学間の連携を通じて知見を共有し、知的財産制度・技術移転・契約条件などに関する課題の解決に取り組んでいく予定です。

お知らせ

大阪府が関西圏の研究者向けスタートアップ育成支援事業「SEEDS LINK」を開始

2025年の大阪・関西万博を契機に、研究成果の社会実装や新たな事業の創出を後押しする取り組みとして、大阪府の支援事業「SEEDS LINK OSAKA・KANSAI」が始まりました。
本事業では、関西圏の大学・研究機関の研究者を対象に、専門家とのマッチング、市場ニーズの検証、事業化パートナーとの連携、研究資金・試作費の獲得などを支援します。利用料は無料です。
本学も、すでに本事業の活用事例が生まれています。研究成果の事業化や社会実装に関心のある方は、ぜひご活用ください。利用をご検討の際は、産業研究所事務室までご相談ください。
詳細サイト： https://seeds-link.com/

今後の予定

<展示会>研究シーズの展開

2026年11月	テクノメッセ東大阪展での研究成果発表
2026年11月	ORIST・MOBIO技術シーズ発表会での成果発表
2027年3月	JST新技術説明会での研究成果発表

<お問い合わせ・相談>
社会連携・研究推進センター
産業研究所事務室
sangaku@cnt.osaka-sandai.ac.jp

大阪産業大学
OSAKA SANGYO UNIVERSITY

「第2回 研究交流会＆ラボ紹介・見学会」を開催
－研究を知り、研究をつなぐ。宇宙研究から広がる社会実装・産学連携の可能性－

研究交流会 ＆ ラボ紹介・見学会

2026年9月10日(木)、本学東キャンパスにおいて、研究交流会およびラボ紹介・見学会を開催しました。
【テーマ】『**宇宙ビジネスへの挑戦　－　ロケットだけじゃない！　宇宙モビリティと太陽系開発の最前線　－**』

本イベントは、本学の研究者が取り組む研究内容や保有技術、研究設備などを学内外に広く紹介するとともに、研究者・学生・連携機関・企業等が交流し、研究上の課題や連携の可能性を共有することを目的としています。こうした交流を通じて、新たな研究テーマの創出や異分野連携、研究成果の社会実装につなげることを目指しています。当日は、学内から6学部・大学院研究科の教員、大学院生・学部生など19名、学外から9名の計28名が参加しました。

冒頭あいさつ




榎副学長が開会のあいさつを述べ、続いて、９月１日付で就任した二村学長からもあいさつがありました。

第1部 研究室・実験施設の紹介・見学

システム工学部の中野教授より、「宇宙推進ロケット工学研究室」の研究内容について紹介がありました。
地球近傍における宇宙利用の広がりや現在の宇宙開発を取り巻く状況と課題をはじめ、研究室が目指す研究の方向性、深宇宙航行、さらにその航行手段の１つである電気推進ロケットについて、具体例を交えながら説明されました。




研究室の紹介に続いて、実験施設を見学しました。参加者は、宇宙研究に必要な真空設備など、実際の研究開発を支える実験設備を間近で見学し、研究者がどのような環境で研究を進めているのかを体感しました。

第2部 学生が挑戦する「太陽系宇宙開発プロジェクト」



続いて、システム工学部のアラム副学長・教授より、学生主体で取り組む「太陽系宇宙開発プロジェクト」について紹介がありました。
ロケットエンジンの開発・製作やモデルロケットの噴射実験、他機関との連携など、学生が主体となって進める実践的な研究・開発活動について説明があり、今後予定している開発や活動についても紹介されました。
実際のものづくりを伴うプロジェクト共育を通して、学生が研究・開発の現場で試行錯誤しながら成長していく姿が紹介されました。大学における研究・教育と、社会で求められる実践的な技術力を結び付ける取り組みとして、参加者の関心を集めました。特に、学生自身が挑戦し、自らの限界を越えていくというプロジェクトの姿勢が印象的でした。

第3部 講演「宇宙ビジネス入門　研究・技術を社会とビジネスにつなぐために　―宇宙モビリティが切り拓く新たな産業－」



第３部では、外部講師に坂下真規氏をお招きし、宇宙ビジネス全般について講演が行われました。
坂下氏は、地球観測に関する研究や、コンサルティングファームでの多様なプロジェクトの推進を経験され、現在はフリーランスのコンサルタントとして活動されています。
また、JSTの事業にも採択され、衛星データを活用したビジネスの創出にも取り組まれています。



講演では、豊富な経験をもとに、宇宙ビジネスの広がりや市場動向を概観するとともに、大学等で生み出された研究成果や技術を、社会課題の解決や新たな事業の創出にどのようにつなげていくかについて解説されました。参入に向けた考え方や具体的な進め方、活用可能な支援制度なども紹介され、参加者にとって理解を深める機会となりました。
講演後の意見交換では、研究成果の社会実装や事業化について、参加した研究者からも積極的に質問や意見が寄せられ、研究成果を社会につなげることへの関心の高さがうかがえました。

大阪産業大学
OSAKA SANGYO UNIVERSITY

「第2回 研究交流会＆ラボ紹介・見学会」を開催　<続>
－研究を知り、研究をつなぐ。宇宙研究から広がる社会実装・産学連携の可能性－

研究交流会＆ラボ紹介・見学会

参加者の声

「このような設備を見る機会はなかなかなく、想像していたよりも大きく驚いた」	「実際の研究設備を見ることで、宇宙をより身近に感じることができた」	「自身の研究テーマとの接点を見出せる可能性を感じた」	「研究者側と同様に、企業側としても、まず『誰の、何を解決するのか』という基本に立ち返ることができた」

具体的な成果　～実施後アンケートより～

成果	アンケート結果から見えたこと
大学の研究設備を学内外に広く紹介	参加目的として最も多かったのは「大学の研究設備・ラボを見学したいから」、次いで「宇宙・太陽系分野の技術やそのビジネスに興味・関心があったから」でした。
イベント内容への高い評価	全体満足度は「満足以上」が100%。 ラボ見学・研究紹介は「有益以上」が94%、太陽系宇宙開発プロジェクト紹介は82%、外部講師による講演は100%でした。
研究連携のきっかけを創出	自身の研究や業務との接点を感じた参加者は75%、 専門分野や所属の異なる参加者との交流ができた参加者は94%、 新たな視点・アイデア・気づきがあった参加者は88%でした。 また、今後の研究連携の可能性を感じた参加者は82%、 イベントをきっかけに今後話をしてみたい研究者・参加者がいた人は81%でした。
研究成果の社会実装・事業化を考える機会を提供	宇宙ビジネスを学ぶだけでなく、研究成果を社会課題や市場ニーズにつなげる視点を得る機会となりました。
学外機関との交流・連携への展開	単に「また交流会をやる」のではなく、今後は「交流するだけ」から「テーマや課題を設定して、具体的な研究連携につなげる場」への発展が期待されます。

今後に向けて　～活動の紹介から、連携によって生まれる価値の紹介へ～

今回のアンケートでは、今後期待する研究交流会の内容として、「特定テーマ型」や「研究者・企業との課題・技術マッチング型」への期待が高いことがわかりました。
また、研究設備・共用機器の紹介や、学生参加型の研究交流会を望む声も多く寄せられ、交流の質をさらに高める工夫が求められていることがうかがえました。
これらの結果を踏まえ、今後は単なる情報交換にとどまらず、具体的な研究連携につながるテーマ設定や、研究者と企業との課題・技術のマッチングなど、交流を実際の連携へと発展させる仕組みを取り入れていくことが重要とを考えています。



本イベントの内容は、9月16日に企画・広報課よりプレスリリースとして発表されました
https://www.u-presscenter.jp/article/131945

【コーディネータより】
今回の研究交流会では、参加者は本学の宇宙分野における研究・開発への理解を深めるとともに、研究者同士や学外の企業・機関との交流を通じて、異分野の研究をつなぎ、新たな共同研究や研究成果の社会実装につなげる可能性を考える機会となりました。
本学では今後も、研究交流会やラボ紹介・見学会などを通じて、本学の研究力を学内外に発信するとともに、研究者同士の交流や産学連携・異分野連携を促進し、研究成果の社会実装に向けた新たな連携やイノベーションの創出を目指してまいります。

